

2. Genetics/Breeding

データ閲覧・コメント入力可能期間：2021年3月28日0時～4月3日24時（予定）

[P2-34]フジキンカの交配方法検討による生産性向上

○Yusuke Ikami¹, Kei Terada¹, Toshiyuki Otani¹, Masatoshi Shibata¹ (1.Shizuoka Prefectural Research Institute of Animal Industry Swine & Poultry Research Center)

【目的】フジキンカは当センターで開発した、金華豚とデュロック種の合成豚である。肉質に優れる一方、厚脂による収益性の低さが問題である。本研究では交配方法を変更し厚脂改善を図った。新たな交配方法による肉豚(NF)の産肉性及び肉質について調査した。【方法】フジキンカは戻し交配を2回行った後、家系内交配により生産されるが、NFは戻し交配の回数を省略し、最終世代の母豚をデュロック種とした。H30年5月からR2年6月までに出荷されたフジキンカ111頭、NF85頭の出荷日齢を調査した。超音波画像診断装置を用い出荷時におけるP2部位の背脂肪厚とロース断面積を調査した。肉質検査はフジキンカ22頭、NF7頭を用い、左半丸より最後胸椎から第4腰椎部胸最長筋を採取し調査した。【結果】出荷日齢 NF 166.1 ± 10.8 (日)、フジキンカ 178.6 ± 15.2 (日)。背脂肪厚 NF 2.6 ± 5.4 (cm)、フジキンカ 3.1 ± 7.4 (cm)。ロース断面積 NF 30.4 ± 4.0 (cm²)、フジキンカ 27.4 ± 3.5 (cm²)。シェアバリュー NF 3.5 ± 0.6 kg/cm²、フジキンカ 2.5 ± 0.6 kg/cm²。両区に有意差が認められた。【結論】交配方法変更により、厚脂が改善しロース断面積が増加した。出荷日齢も短くなり生産性が向上した。一方でシェアバリューの違いについてはNFの検体数が少ないことから、n数を増やし再度検討していく必要がある。